

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		平成24年 7月31日
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)		氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地		城陽市長 橋本 昭男
環境マネジメントシステムの名称	城陽市環境マネジメントシステム (ISO14001) ※平成24年4月に、市独自環境マネジメントシステム (J-E MS) へ移行	
適用範囲	本庁舎、寺田分庁舎、城陽市男女共同参画支援センター、上下水道部庁舎、保健センター、学校給食センター ※平成24年4月以降は市が直接管理する全施設に拡大	
導入年月日	平成15年3月20日 ※市独自環境マネジメントシステムは平成24年4月1日より運用開始	
認証番号	E099 (※平成24年3月19日をもって認証期間満了) ※平成24年4月より市独自環境マネジメントシステム (J-E MS (ジェイムス)) へ移行	
基本方針	別添①「環境方針」のとおり ※平成24年4月1日より別添②「環境方針」のとおり	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標 (以下「目標」という。)	①日常共通事務の省エネ省資源、リサイクルの推進 電気使用量 平成22年度比2.0%削減 ガス使用量 平成22年度比2.0%削減 ガソリン・重油使用量 平成22年度比2.0%削減 水道水使用量 平成22年度比2.0%削減 紙の使用量 平成22年度比2.0%削減 ごみの排出量 平成22年度比2.0%削減 ②各所属の環境配慮事業ごとに設定 自然と都市環境が調和したまちづくり3項目 環境に配慮した事務・事業活動12項目	
目標を達成するための取組の内容	①日常共通事務の省エネ省資源、リサイクルの推進 昼休みの消灯、適切な空調管理、両面印刷の徹底など手順書に基づいた取り組みを実施した。 ②各所属の環境配慮事業ごとに設定 実施計画に基づき取り組みを行った。	
目標を達成するための取組の進捗状況	①日常共通事務の省エネ省資源、リサイクルの推進 電気使用量 1,775,002.2kWh 平成22年度比7.0%減 ガス使用量 61,269.7m ³ 平成22年度比8.3%減 ガソリン・重油等 155,355.9L 平成22年度比0.04%減 水道水 41,589.8m ³ 平成22年度比2.3%減 紙の使用量 5,729,500枚 平成22年度比8.2%増 ごみ排出量 78,819.2kg 平成22年度比0.2%増 ②各所属の環境配慮事業ごとに設定 各事業ごとに進捗を管理。実施計画に基づき実施した。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①目的・目標における日常共通事務の省エネ省資源、リサイクルの推進活動に取り組んだ。特に夏季、及び冬季の節電対策に積極的に取り組んだ。電気、ガス、水道水において目標を達成した。 ②各所属の環境配慮事業について、10項目について目標を達成した。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について、年2回遵守評価を実施した。(違反等無)	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	内部環境監査については、昨年と比べ大幅に指摘事項が減少しており、システム自体や、職員の取組みがほぼ成熟したものと考えている。平成24年4月より、市独自環境マネジメントシステムを運用していることから、今後は、職員の意識の底上げを図りながら、内部環境監査の結果、及び環境管理責任者の改善提案を踏まえて、新システムが効果的に運用できるよう改善に努める。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。